

新潟県中越地震による応急仮設住宅のインテリアおよびエクステリアに関する現状調査

—長岡市中央地区および悠久山地区を対象とした分析—

中村 圭江

1. 研究目的

震災後の仮設住宅における生活は、被災者にとって被災から復興への過程における重要な時期であり、復興意欲を高められる空間であることが期待されるが、現状では問題点等も少なくない。本研究では、仮設住宅の室内に関するカーテン等といったインテリアや増設や植栽等といったエクステリアに着目し、居住者の工夫等などが居住者に与える影響や効果について事例を含め、現状調査、分析することを目的とする。

2. 応急仮設住宅の概要

2004年10月23日から発生した新潟県中越地震（最大震度6強、M6.8）では、山崩れなどの土砂災害や震度5以上の余震による被害を受けた。多くの被災者が家屋の被害を受け、現在も仮設住宅で生活している被災者も少なくない。この震災で建設された仮設住宅は、寒冷地仕様のプレハブ式仮設住宅で、入居可能な個別面積は世帯人数により分けられている。仮設住宅タイプの図面を図1～3に示す。

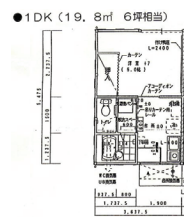


図1 1DK：単身用

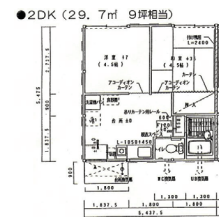


図2 2DK：2・3人用

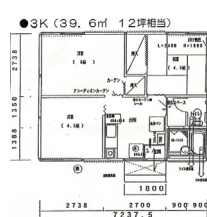


図3 3K：4・5人

<仮設住宅における室内の様子>



台所



和室（4.5畳）



玄関

仮設住宅の配置計画においては、震災前の地域ごとによる配分計画によって居住者のコミュニティを考慮していることが、長岡市へのヒアリング調査から明らかとなった。また、居住者は震災前の地域に近い仮設住宅に入居できるように考慮されている。

<仮設住宅の配置図>



操車場北仮設住宅



操車場南仮設住宅



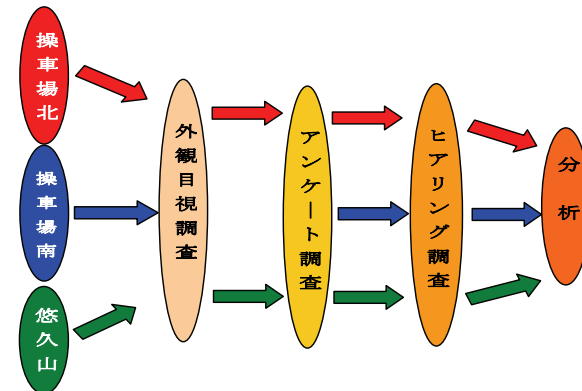
悠久山仮設住宅

3. 研究方法

<調査対象>

操車場北仮設住宅 223件
操車場南仮設住宅 236件
悠久山仮設住宅 162件

調査期間内において仮設住宅団地内の集会場にて子供を対象としたイベントを実施し、イベントに参加した保護者などの居住者にヒアリング調査を実施した。イベントに参加しなかった仮設住宅居住者にもヒアリング調査を実施した。



木造軸組模型の作成



手作りライトの作成



机ごとに分かれて作業を実施

4. 外観目視調査

★エクステリアに関する調査結果

仮設住宅に雪囲い、物置小屋やベンチといった増築を行っている住戸の割合を図4に示す。操車場南仮設住宅の居住者が最も仮設住宅に対する増築を行っており、隣接する操車場北仮設住宅では、増築している居住者が少ない結果となった。悠久山仮設住宅では、自転車置場を増設している住戸が他の仮設住宅団地よりも目立った。

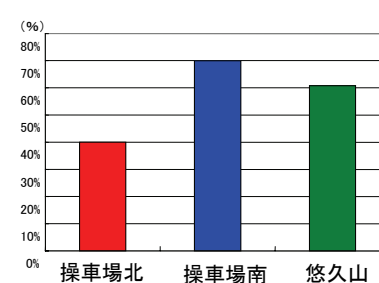


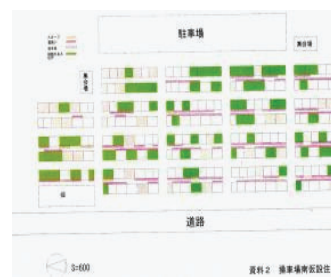
図4 仮設住宅別増築を行っている住戸の割合（空き家を含まない）

★操車場北仮設住宅

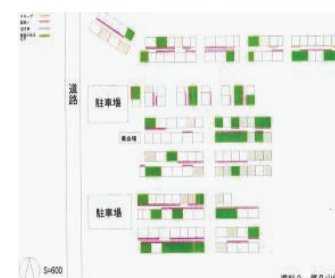
11月の調査時には空家も多くなり、敷地内にいる居住者も、他の仮設住宅よりはあまり多くみうけられなかった。なかには、仮設住宅の玄関部分の段差をベンチ代わりとして使用している居住者や折りたたみ椅子を使用して会話している居住者もみられた。



操車場北仮設住宅



操車場南仮設住宅



★操車場南仮設住宅

空家の住戸が少なく、増築や緑化が目立つ住戸が多くみられた。植栽に手をかけている居住者が多く集まる棟があり、植栽の株分けが行われていると推察され、ヒアリング調査からも実証できた。スロープを設置している住戸では、スロープを活用して、植栽を飾っている住戸もある。これは他の仮設住宅においても同じ事例がみられている。



植栽に手をかけている例1



植栽に手をかけている例2



植栽に手をかけている例3



棟間にある植栽の例

★悠久山仮設住宅

大規模な増築を行っている住戸がみられた。ベンチでは、食事やお茶など近隣のコミュニティを円滑にする役割を果たしている。操車場南仮設住宅と同様に、植栽に手をかけている居住者が多い棟と少ない棟など団地内においても偏りがみられた。また、山の麓に建設されているため、大規模な増築や緑化は周囲と溶け込むような雰囲気になっていた。



大規模な緑化



大規模な増築



特徴的な物置小屋



窓辺に植栽を飾る例

★福岡県の仮設住宅

増築等が新潟県に特化したものなのか把握するために福岡県西方沖地震において建設された仮設住宅についても外観目視調査、ヒアリング調査を行った。増築はみ



緑化の例1



緑化の例2



向き合う玄関の様子



られなかったが、仮設住宅の緑化は行われていることが外観目視調査から把握することができた。

写真1 仮設住宅のエクステリア

5. アンケート調査

★居住水準との関係性

新潟県では、誘導居住水準を満たしている世帯が約半数を占めていることが新潟県マスタープランから明らかとなっている。よって震災以前の住まいの一人当たりの所有面積は仮設住宅と比較すると、広がったと推察できる。そのため、土砂災害などで被害を受けた家財も多かったと考えられ、被害による喪失感も大きかったと考えられる。

表2に示すように、仮設住宅では3人家族以上になると、最低居住水準を満たすことができない状況になる。5人家族が最も仮設住宅では居住水準が低い環境であった。6人以上になると仮設住宅は2戸に分かれてしまうが、面積の観点からみると3人家族よりも居住水準を満たしていることがわかる。

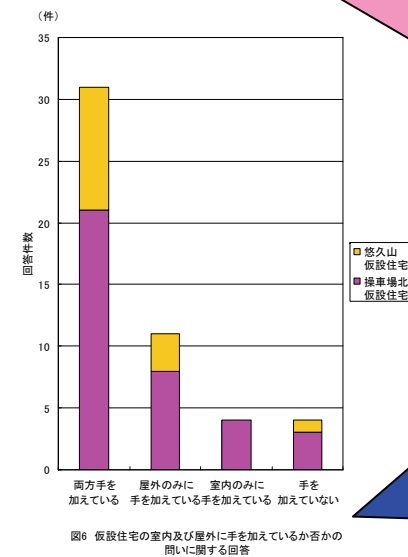
表2 仮設住宅面積と最低居住水準の関係

仮設住宅タイプ	仮設住宅面積(m ²)	家族人数(人)	最低居住水準(m ²) (新潟県第八期住宅建設五箇年計画)	最低居住水準を満たしているか否か	最低居住水準との差(m ²)
1DK	19.8	1	25	○	5.2
2DK	29.7	2	29	○	0.7
		3	39	×	-9.3
3K	39.6	4	50	×	-10.4
		5	56	×	-16.4
1DK+3K 2DK+2DK	59.4	6 7	66	×	-6.6

★集計結果

仮設住宅に自分の家らしいと感じる部分があるか否かの問いに関するアンケート結果を図5に示す。

操車場北仮設住宅の居住者は、仮設住宅に自分の家らしいと感じる空間がある人と無い人が同じ程度だが、悠久山の居住者には、回答に差がみられた。



仮設住宅の室内と屋外の両方に手を加えている回答が最も多かった。ただし室内よりも屋外の方が手を加えやすい傾向がややみられる。室内が狭いため、荷物を置くための増築が行われていると考えられる。

仮設住宅の室内および屋外に手を加えているか否かに関するアンケート結果を図6に示す。

★被害状況との関係性

被害状況と仮設住宅の室内と屋外に手を加えたか否かの関係性を図7に示す。

被害状況が全壊の居住者の方が、仮設住宅の室内、屋外ともに手を加える傾向がややみられる。全壊の場合、仮設住宅に運ぶ荷物が半壊の居住者よりも多いことが考えられ、荷物の保管場所として増築する居住者が多いことが推察される。

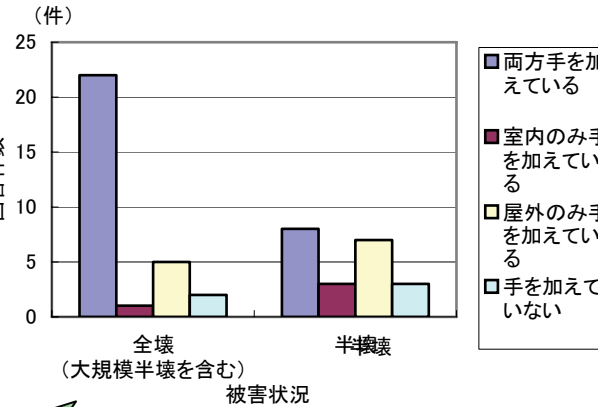
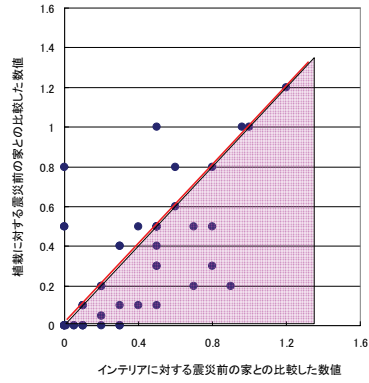


図7 被害状況と仮設住宅の室内と屋外に手を加えたか否か

植栽とインテリアに対する震災前の家と比較した数値の関係を表したものを図8に示す。周辺環境とインテリアに対する震災前の家と比較した数値の関係を図9に示す。

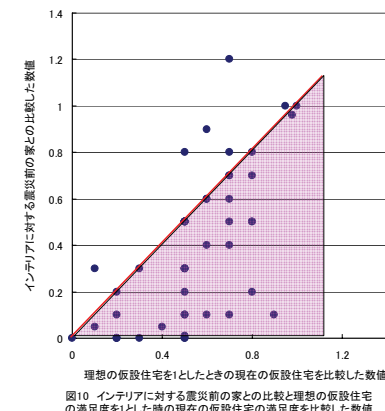
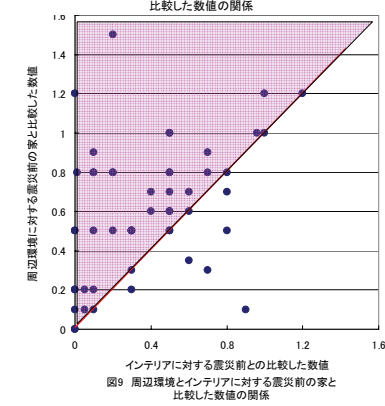


比較する数値の1と0を結んだ赤線よりも、図8ではインテリアに対する震災前の家と比較した数値の方がやや高い傾向がややみられた。図9では、周辺環境に対する震災前の家と比較した数値の方が高い傾向がややみられた。

比較した数値の関係から **周辺環境 > インテリア > 植栽** の順に震災前の家と比較した数値が高いことが考えられた。植栽に関しては、震災前の家が植栽に手をかけている居住者が、震災前と比較すると低い数値になることが推察される。周辺環境に関しては、震災前と比較的に近くに仮設住宅が建設されたため、震災前の環境に近いことが考えられるため、インテリアや植栽よりも震災前の家と比較した数値が高いことが推察される。

インテリアに対する震災前の家と比較した数値と理想の仮設住宅の満足度を1とした時の現在の仮設住宅満足度の数値の関係を表したものを図10に示す。

仮の住まいではあるが、回答者の多くが現在の仮設住宅のインテリアでは満足していないことが考えられる。



6. ヒアリング調査

ヒアリング調査では、居住者の仮設住宅の室内の様子や仮設住宅生活の不満点等を調査した。意見の一部を下記に示す。

★インテリアに関するヒアリング

室内に装飾品があると良いが、物がたくさんあるため、飾れない。
仮設住宅の室内には、入居後手を加えたものがありますか。

★エクステリアに関するヒアリング

雨や雪の吹き込みがひどくて、雪囲いを大きくすることにした。以前よりは楽になった。
玄関部分を増築等したきっかけはありますか。
入居した当時から植栽に手をかけている。近所の居住者からよく話しかけられる。

★仮設住宅生活に関するヒアリング

入居してからの新しい友人と離れたくない。新しい家が完成しているが、まだ引越したくない。
仮設住宅生活に関して入居後に変化はありますか。

7. 考察

- **インテリアに関する考察**: 仮設住宅生活では、仮設住宅のインテリアまで考える余裕がないという居住者が多いが、室内装飾などのインテリアにも取り組んでいる居住者もいる。さらに仮設住宅の物理的な問題点である断熱性を改善している例など生活改善実態がみられた。
- **エクステリアに関する考察**: 玄関部分の雪囲い兼物置を増築し、玄関部分として利用している居住者が多い。仮設住宅の室内を広く利用するために増築し、玄関部分を広くすることや荷物を物置に保管するというような改善が行われていた。また、植栽に関しては増築と比較して金銭的に関わらず取り組みやすい。震災前から植栽に手をかけている居住者のみならず、入居後の新たな近所付き合いがきっかけで植栽に手をかける居住者もみられた。震災以前から植栽に手をかけていた居住者にとって、仮設住宅に入居してからも植栽に手をかけることは、日常生活の回復であり、またコミュニティ形成のきっかけにもなったことがわかった。
- **まとめ**: 被災者にとって仮設住宅生活は恒久住宅に移る前の移行期間であることから非日常生活であることが考えられるが、震災前と同様である日常生活を取り戻すために仮設住宅の改善実態がみられた。